

(仮称)鉢伏山風力発電事業 環境影響評価方法書
 審査会(小委員会)(3月11日)での意見に対する事業者の見解

番号	項目	審査会(小委員会)(令和3年3月11日等)での意見	意見に対する事業者見解
1	動物・植物・生態系 (希少猛禽類)	<p>方法書の6-33(303)ページにおける動物の環境要素の調査の手法の中では、調査対象種としてクマタカにしか言及されていないことから、イヌワシについても調査対象種であることを明記すべきである。</p> <p>また、イヌワシはクマタカに比べ生息個体数が少ないことから、その生息状況の把握のためにはより綿密な調査計画が求められる。イヌワシの生息状況の把握も踏まえた調査計画を、方法書の中に位置づけるべきである。</p> <p>次回の小委員会において、イヌワシの生息状況の把握を踏まえたより具体的な調査計画や、予測・評価の手法について、補足説明資料を用意していただきたい。</p>	<p>頂いたご意見のとおり、猛禽類の調査対象種として、対象事業実施区域及びその周辺におけるイヌワシの出現状況にも留意する方針ですので、準備書においてその旨を明記いたします。</p> <p>なお、猛禽類に係る調査、予測及び評価の手法については、定点観察法により対象種すべての出現状況およびその行動の把握に努める計画としております。また、調査地点についても、対象事業実施区域及びその周囲を広く観察できるように設定していることから、イヌワシの出現状況やその頻度についても適切に把握できるものと考えております。具体的な調査の実施方針及び予測・評価の方針については、補足資料を用意いたします。</p>
2	動物・植物・生態系 (希少猛禽類)	<p>風車の設置や搬入路等の整備に伴う植生の変化により、開けた場所が連続的に形成されると、イヌワシを誘引する可能性(飛来頻度が上昇する可能性)がある。また、現在対象事業実施区域およびその周辺にイヌワシが生息していない場合も、分散個体(フローター)が定着する可能性や、個体群密度の低下に伴い対象事業実施区域から離れた場所に生息するつがいの行動圏が広がる可能性がある。については、植生の変化に伴うイヌワシの誘引(飛来頻度の上昇)による個体および個体群への影響について、生息状況を適切に調査のうえ、予測・評価を行うこと。</p>	<p>対象事業実施区域およびその周辺には、スキー場や高速道道路等によって生じた草地環境等が点在していることから、現況ですでにイヌワシを誘因する可能性を有する地域と認識しております。</p> <p>そのうえで、本事業の実施に伴う植生の変化による出現状況への影響については、他事業の事例等、可能な限り情報収集に努め、予測・評価を行います。</p>
3	動物・植物・生態系 (希少猛禽類)	<p>対象事業実施区域およびその周辺には高密度でクマタカが生息しているという説明があったが、ある地域にクマタカの個体群が存在していれば一様に一定の密度で個体が生息している傾向があるため、そのことを念頭においた調査を行っていただきたい。</p>	<p>頂いたご意見を踏まえつつ、専門家に指導、助言を仰ぎ、調査を行います。</p>
4	動物・植物・生態系 (希少猛禽類)	<p>方法書の6-46(316)ページには生態系の環境要素に係る調査・予測・評価の手法が示されているが、上位性の注目種としてのクマタカの採餌環境への影響の予測・評価のため、餌資源としてノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類のみが調査対象とされている。しかしながら、クマタカは様々な種類の中小動物を餌資源として利用しており、地域によってその構成は異なっている。については、ノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類のみが餌資源であることを前提として調査を行うのではなく、地元の専門家へのヒアリングや、他事業の環境影響評価の実施結果や県が有する知見等の収集により、その地域で餌資源として利用されている動物を把握し(適切に餌資源となる動物を設定し)、調査・予測・評価を行うこと。</p>	<p>頂いたご意見を踏まえつつ、今後の予測・評価においては、専門家に指導、助言を仰ぐとともに、現地調査時に確認された餌種を整理し、また、最新の知見を踏まえてクマタカについて予測・評価を行います。</p>

番号	項目	審査会(小委員会)(令和3年3月11日等)での意見	意見に対する事業者見解
5	動物・植物・生態系 (累積的な影響予測)	<p>本事業と他事業の対象事業実施区域の位置関係等の情報から、希少猛禽類や渡り鳥等の鳥類への影響について、一定の累積的な影響の予測・評価ができるのではないかと見られる。</p> <p>イヌワシ・クマタカの生息に係る情報があること、鳥類の渡りの主要なルートである可能性が高いことから、対象事業実施区域およびその周辺は鳥類の生息にとって重要な地域であることが示唆される。については、積極的に鳥類に対する累積的な影響の予測・評価を検討されたい。</p>	<p>頂いたご意見を踏まえつつ、まずは累積的影響の予測・評価に必要な、周辺で計画中的他事業に関する情報(風車配置、基数、大きさ等)について、公表された情報や、他事業者との情報交換等により検討状況を確認し、把握するよう努めます。他事業者の情報が収集できた都度、本事業との累積的な影響について検討します。なお、情報が十分に得られない場合には、周辺の対象事業実施区域の位置関係や、収集した最新の知見等の情報を基に専門家に指導、助言を仰ぎ、可能な限り累積的影響についても予測・評価いたします。</p>
6	動物・植物・生態系 (累積的な影響予測)	<p>方法書5-3(263)ページには、配慮書に対する経済産業大臣意見が掲載されているが、経済産業大臣意見の中でも累積的な影響の予測・評価について検討するよう言及されている。環境影響評価の手続きの中で作成された図書等の公開情報の活用や、他事業の事業者との情報交換等に努め、累積的な影響の予測・評価について検討されたい。</p>	<p>頂いたご意見を踏まえつつ、周辺の他事業の情報収集に努め、また、公開されている環境影響評価の図書等における累積的影響の最新事例を参考とし、専門家に指導、助言を仰ぎ、可能な限り累積的影響についても予測・評価を行います。</p>
7	動物・植物・生態系 (バードストライク)	<p>近隣で現に稼働している風力発電事業においてどの程度のバードストライクが起こっているかを把握し、衝突確率による予測結果との比較を行うことを検討していただきたい。</p>	<p>近隣で稼働中の風力発電事業におけるバードストライクの事例について可能な限り情報収集に努め、衝突確率による予測を行うために十分な情報が得られた場合には、専門家に指導、助言を仰ぎつつ、予測・評価を行います。</p>
8 ※	動物・植物・生態系 (鳥の渡り)	<p>対象地域はタカの渡りを含む重要な鳥の渡りコースと考えられている。そのためバードストライクを避けるために渡り鳥調査が予定されているが、これまでの観察ではタカの渡りは雨天時や霧の発生時あるいは強風など気象条件により通過する高度やコースが大きく変わることが想定される。また、周辺に同様の風力発電施設の計画があり設置後には渡り個体への累積的な影響が懸念される。</p> <p>については、予定されている調査体制や規模、回数および観察ポイント等でこれらの諸条件時における渡りの実態を把握することが出来るかどうか、また実態を把握出来た際に開発後の人工物の稼働が渡り個体に与える影響をどのように予測評価することが出来るのかについて説明をお願いしたい。</p>	<p>渡り鳥調査に係る調査体制(調査地点数等)、回数、観察ポイントについては、方法書6-35(305)、6-38(308)、6-40(310)ページおよび補足資料に記載したとおり実施いたします。</p> <p>調査結果について、対象事業実施区域及びその周辺における調査実施日の天候等の気象条件による飛翔高度、主要な経路の比較を行うことで、諸条件時における渡りの傾向を把握することは可能であると考えております。そのうえで、施設稼働後の渡り個体への影響についてそれらの諸条件を考慮しながら定性的な予測を行う方針です。</p> <p>なお、現地調査結果からタカの渡りへの影響の予測評価について不確実性が残る場合は、状況に応じた事後調査計画を検討し、構造物の存在が渡りの個体に与える影響の把握に努めます。</p>

※審査会後の追加意見